

出題分析		
試験時間 80 分	配点 100 点	大問数 3 題
分量 (昨年比較) [減少 同程度 増加]		難易度変化 (昨年比較) [易化 同程度 難化]
概 評 ——出題の特徴・特記事項		
<p>I 奈良時代～平安時代の仏教, II 鎌倉時代～江戸時代の古文書, III 江戸時代～大正時代の学問思想史に関して出題された。昨年復活した原始時代からの出題はなくなり, 大正以降についてはIIIの〔5〕で扱われたのみで, 現代史に関する出題はなかった。昨年に引き続き地図問題は出題されず, 昨年みられた図像選択問題や史料の空欄補充問題も出題されなかった。文化史からの出題が多く, 細かい知識を要求する問題もみられたが, 全体的に難度の高かった昨年に比べると, 苦手意識の高い受験生が多いと思われる近現代史からの出題が減少したため, 易化とした。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	奈良時代～平安時代の仏教	(a). ㉞のみ白鳳文化期。(b). やや難。尼のまま天皇となったこの人物は称徳天皇である。(d). 破格の待遇を受けた僧は道鏡である。(g). 比叡山の麓の門前町坂本の馬借が蜂起した。(1). ㉠㉡が最澄の著書で, ㉢㉣が空海の著書。(m). 神木と迷ったかもしれない。奥の表記に注意。(o). 難。八幡宮の総本社が大分県の宇佐八幡宮であることを想起できれば, 西海道を導けるか。	標準
II	鎌倉時代～江戸時代の古文書	A. 歴史用語ではなく迷ったか。B・C・E. やや難。E. 「日記」としては『大乘院寺社雑事記』だが, 文脈的には『大乘院日記目録』も答になり得るだろう。H. かぶりものから連想できるか。(a). 消去法でも導ける。(b). 『病草紙』は平安時代末～鎌倉時代初めの絵巻物。(c). ㉞: 濃絵の説明であり誤り, ㉟: 異時同図法。(d). ㉠: 鳥獣人物戯画, ㉡: 慕帰絵詞, ㉢: 粉河寺縁起絵巻。(e). ㉠: 豊国祭礼図屏風, ㉡: 南蛮屏風, ㉣: 職人尽図屏風。	標準

設問別講評			
III	江戸時代～大正時代の学問思想史	<p>A. 惺窩の表記に注意。(a). 消去法でも導ける。</p> <p>(b). ㊦：木下順庵に学んだ徳川綱吉は、朱子学を重視し、林鳳岡（信篤）を大学頭に任じた。※2月10日に大学から発表があり、㊥の記述が不正確であるため、(b)は全員正解となった。(f). ㊥の文中にある「内憂と外患」に気づけたかどうか。</p> <p>(g). 古文辞学派を興し柳沢吉保に仕えたのは荻生徂徠。(i). 難。教科書にも掲載されているが、いくつかの事件の中から絞り込んで解答するのは難しい。[5] 近代史の内容だがいずれも解答しやすく、確実に得点したい。</p>	標準

合格のための学習法

立命館大学入試日本史では、年号を含めた細かい知識を必要とする設問が散見される。このため、確実に得点できる問題でミスをしたくないようにしたい。今回は文化史の比重が大きかった。したがって、日々の学習において、時代の偏りなく教科書内容を理解することはもちろん、用語集の解説部分や掲載頻度の低い語句のほか、文化史対策のためにも図説資料集の細部にまで目を通して知識を積み重ねておく必要がある。特に、今年の本日程では出題されなかったが、立命館大学入試日本史では頻出の原始時代にもしっかりと備えておきたい。日頃から、問題文を正しく読み取ることとともに、漢字を中心とした正しい表記を心がけておきたい。